

# とかち帯広の未来を考える



編集発行  
上野ようすけ事務所

帯広市西12条南17丁目3  
難波ビル2階  
☎ (0155) 24-2540番  
FAX (0155) 67-5778番

vol. 6

# うえ の 上野ようすけの鳥の目虫の目 レポート

info@uenoyosuke.net http://www.uenoyosuke.net/

## スピーチライターからの学び

上野 庸介

毎年5、6月は様々な団体の「年次総会」があります。私もいくつか参加しましたが、5月31日には北海道私立幼稚園協会の総会と研修会がありました。

今回の講演テーマは、「言葉で世界は変えられる く人を動かすスピーチ、プレゼンの力を磨く」。去年、同じ会での研修は「就業規則の作成と紛争裁判例について」でしたし、毎年わりと固めの内容の研修会でしたので、「なぜ、今年はこの内容なんだろうか…」とも感じていましたが、当日、なかなか面白くお話しを伺うことができました。

講師はスピーチライター・蔭山洋介さん。スピーチライターといえば、最近では、オバマ大統領のス

スピーチライター、ジョン・ファヴロ氏が注目されたことがありました。

日本でも、「スピーチライター」と言うかどうかは別にして、昔から現在にいたるまで、官僚、あるいは若手政治家が総理や大臣の演説原稿を書くことが多いようです。ちなみに、作家・三島由紀夫は大蔵省にいたころ、その文才を期待され、当時の大臣の演説原稿を書いた、とも言われています。

今回の講演内容は、自分自身で原稿を書くことを前提とし、そのうえで、印象に残るスピーチを作り上げるための構成のコツとは何か、というものでした。

テクニクを伝授する、というよりも、受け手の側から見てどう

いう構成が印象に残るのか、という非常に論理的な内容で、日常の挨拶からもう少し大勢に向けた演説までに応用できる内容で、非常に有意義でした。この方はご著書もあるようですので、ご興味ある方はぜひご一読下さい。

さて、統一地方選挙まであと1年を切りました。

私自身も、皆さんの心に届く、心に響くスピーチができるよう、来春の本番に向けて、努力を重ねる1年にしていきたいと思えます。



レポート vol.1  
**日本自治創造学会に  
 行ってきました。**

5月10、11日に、毎年参加している日本自治創造学会へ行ってきました。今年のテーマは、「人生100年時代の地域デザイン〜人口減少社会に向き合う地域社会〜」。地方議会議員を中心に全国から600名近い参加者があり、昨年よりも盛大だった気がします。

さて、このところ、「人生100年時代」という言葉をよく耳にします。

私がこの言葉を初めて聞いた時、「100年」というのは長寿の代名詞の一つのようなものだと思っていました。いくらなんでも、だれもが100年生きる時代など来ない



第10回日本自治創造学会 研究大会 プログラム	
<b>■ 第1日目 5月10日(木)</b>	<b>■ 第2日目 5月11日(金)</b>
18:00-18:15 開会式	10:20-11:00 講演 1 高齢化社会と地方自治
18:20-18:35 講演 1 人生100年時代の政府の取組み	11:00-11:10 休憩
18:40-19:00 講演 2 人口減少時代の地方自治	11:10-11:50 講演 2 空室率対策と活用策
19:05-19:20 講演 3 人口減少時代の地方自治	12:00-12:05 休憩
19:25-19:40 講演 4 人口減少時代の地方自治	12:05-12:10 講演 3 人口減少と地方自治
19:45-17:00 休憩	13:00-13:50 講演 4 人口減少と地方自治
17:00-17:40 講演 5 人口減少時代の地方自治	13:50-14:00 休憩
17:50-20:00 改進黨員自治文芸大会	14:00-14:55 講演 5 地方自治の未来

だろう…、と。しかし、この「人生100年時代」の示す100年とは、文字通りの寿命のことと知り、さらには、「日本で2007年に生まれた子どもたちの約半数は107歳まで生きる」というデータもあるとなってくれば、これは



もう、人の生き方そのものが大きく変わるのだろうと感じずにはいられません。

政治も「人生100年時代」に合わせて政策の舵を切っています。

これまでどおりの「教育↓仕事↓引退」という3ステージを前提にした場合、今の60〜65歳くらいを退職年齢とする雇用環境だと、その後の『引退』のステージが非常に長くなってしまいます。

そこで、退職年齢の引き上げや、70歳、80歳まで働ける環境づくり（現役世代のキャリアアップ、中高年の再就職支援、リカレント教育など）が『新しい経済政策パッケージ』として発表されています。

『引退』として発表されています。

老年期だけではありません。生まれてきた子どもたちが、その後100年にもわたる長い長い人生を生き抜くには、幼少期から質の教育を受けることが必要であり、それは誰しもが受けることができ、それだけでなければならぬ、と考えられ始めました。それが、幼児教育や、高等教育の無償化等へつながっています。これらが、いわゆる『人づくり革命』という政策です。これらの政策に投入される財源が消費税の増税分、ということになります。消費税の使い道がこのように変わるので、その信を問うたのが、昨年の衆議院選挙でした。

このように現在は、国レベルで政策が示されている段階と言えるでしょうが、さて、この「人生100年時代」に、地方政治は何ができるのでしょうか。

人生とは、生活であり、生活は地方（住む町）で営まれるものです。国は制度を整えますが、実際にそ

れが動く場面は地方です。

日本全国のどこにでも当てはまる課題は国が政策として大々的に取り組むことでもいいでしょうが、「人生100年時代」となった今、その時代に行行政サービスを提供する地方は、独自に抱えている課題や克服すべき問題を精査し、それを解決するための独自政策を示さなければなりません。それに対して国は予算面から支援する形が重要です。



人生100年時代を生きる私たちにとって、最も重要なことはなんでしょう。それは、人生が10

0年だろうが、何年だろうが、変わりません。「できるだけ健康に人生を歩むこと」、だと私は思います。

健康である期間のことを健康寿命と言いますが、北海道ではこれが全国平均よりも低い数値になっています（帯広市の健康寿命は男性は全国平均よりも少し高くなっています。女性も低くなっています）。

健康は、人生の豊かさを生み、その一方で、医療費の拡大を抑えることにもなります。健康寿命から平均寿命までの間が「介護等が必要な期間」と考えられます。今後、平均寿命が延びていく傾向は間違いない以上、健康寿命も伸ばさなければならず、これこそが政治の取り組む課題と言えます。

では、どのような取り組みが必要でしょうか。

健康寿命は、実は地域によってバラバラです。2016年の調査ですが、男性の健康寿命は全国平均は72・14歳。山梨県が最も長く73・21歳、秋田県が最下位で71・21歳と2歳の開きがあります（北

海道は71・98歳で25位）。女性は74・79歳が全国平均で、第一位は愛知県で76・32歳、最下位は広島県で73・62歳（北海道は73・77歳で45位）。

寒い地域は健康寿命が短くなりがちとの指摘もあるのですが、それでも、平均に近づける努力を政治は怠つてはいけません。

例えば、死因の一つとされている病気への予防も健康寿命を延ばすことに寄与する政策です。帯広市は平成27年3月に「帯広市国民健康保険健康事業実施計画（データヘルズ計画）」を発表しています。帯広市民の死因で最も多いのはガンであり、この部分への予防医療や啓もう活動は始まっているようです。別の病気に目を移すと、ガ

ンほどではありませんが、腎不全も全国平均よりも高い死因となっています（糖尿病よりも倍以上の数値）。となれば、腎不全が原因で亡くなる方が全国的な数値から見ても多いという点を周知し、それに合わせた予防医療に力を入れる必要があると私は考えます。

また、今様々な自治体で導入され始めている「健康ポイント・マイレージ制度」の活用も意味があると思います。

二日間にわたる講義は非常に盛だくさんでした。多くの参加者（地方議員）にとっては、この勉強会がその後の一般質問のネタになるそうです。

私も来年は、議員として参加できるような頑張りたいと思います。

レポート vol.2  
**自民党道連の政治塾に行っています。**

現在私は、月に一度、自由民主党道連が主催する第七期の政治塾へ通っています。講義の様子等撮

影が認められていない（SNS等での発信も許されていない）ので、残念ながら写真はないのですが、



これまで、以下のような内容の講義を受けてきました。

- **一回目** 「北海道の未来」(吉川貴盛道連 会長)
- **二回目** 「人生一度きり」(遠藤連・前北海道議会議員)
- 「政府の長期計画によりデフレ脱却へ」(西田昌司参議院議員)
- **三回目** 「国土強靱化、地方創生、心豊かな人生100年改革」(福井照 衆議院議員)

- 「北海道の政治風土」——保革拮抗の遠因について——(東国幹北海道議会議員)

- **四回目** 「憲法9条と日本の防衛」(中谷元衆議院議員)

- 「当面する道政の重要課題について」(中司哲雄北海道議会議員)

- **五回目** 「ゼロからの地盤作り」(東国幹北海道議会議員)

- 「最近の内外情勢について」(平沢勝栄衆議院議員)

- **六回目** 「自民党人生100年時代戦略」(片山さつき参議院議員)

- 「地政学について」(船橋利実衆議院議員)

6月は東京研修で、7月からはまた札幌での講義スタイルです。政治塾の講義で学びを深め、来年の統一地方選挙で皆さんに訴える政策に厚みを持たせたいと思っています。

## 後援会主催行事のスケジュール

- 7月22日 四つ星ゴルフコンペ
- 9月30日 ナイスタウン杯パークゴルフ大会

上野ようすけ後援会では、以下の行事を予定しております。昨年ご参加いただきました方々を中心に、行事が近づきましたらご案内をお送りします。

ご質問、お問い合わせは上野事務所(0155-2412540)までお願いいたします。



今回の鳥の目虫の目通信はとことん「人生100年時代」がテーマです。「ライフシフト 100年時代の人生戦略」(リンダ・グラットン、アンドリュ

ー・スコット著・東洋経済新報社1800円)をご紹介します。

本書の著者はお二人ともロンドン・ビジネススクールの教授で、組織論の世界的権威と、経済学者だそうです。この本が日本で出版されたのは2016年11月ですが、この本こそ、今の「人生100年時代」ブームの火付け役です。

人生100年時代の到来をテーマで示した上で、「長寿」への価値

観の変化にはじまり、雇用、資産時間、人間関係など、様々な「変化」に対して人間がどう向き合うかを提示しています。人生100年時代と言われてもいまいピンとこなかった私にとっては、その実現とそれに伴う変化の方向性や雰囲気を感じる事ができる本でした。

翻訳本にありがちな「それは日本では当てはまらないだろう…」という部分もありますが、ご興味ある方はぜひご一読下さい。

